

16高虫防第119号
平成17年3月16日

関係機関長 様

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察注意報第5号を送付します。

平成16年度病虫害発生予察注意報第5号

平成17年3月16日
高知県病虫害防除所

病虫害名 シルバーリーフコナジラミ

1. 対象作物 ナス、ピーマン・シシトウ、トマト（施設栽培）
2. 発生地域 県内全域
3. 発生時期 9月中旬以降
4. 発生程度 多

5. 注意報発令の根拠

- 1) 現在、促成ナス、ピーマンでの発生が多く、特に県東部の促成ナスでは平年の1.5倍以上の発生面積となっており、寄生密度も高い(表)。
- 2) 栽培初期から発生が多く、16年10月1日に注意報を発令し、防除対策も実施されているものの、例年のように気温低下や防除対策による密度低下はあまり見られず、特に促成ピーマンにおいては、2月以降、さらに寄生密度が上昇している(図1、図2)。また、トマトでは黄化葉巻病対策として徹底防除がなされたため、寄生密度は低いものの、発生が続いている(表)。
- 3) ナス、ピーマン・シシトウでは天敵導入を行なうハウスが増加しており、導入後は薬剤防除が制限されるため、効果的な薬剤防除が行えていない。
- 4) 向こう一ヶ月の気象予報では気温・日照時間とも平年並と予想されており、今後も密度の上昇が予想され、すす病による草勢や果実品質低下、ピーマン・シシトウでは白化(退色)症状、トマト黄化葉巻病の発生拡大などが懸念される。

6. 防除対策

- 1) 気温の上昇期を迎え、低密度時からの定期的な防除が重要であるが、効果的な薬剤も限られるため、生物農薬や気門封鎖等物理的作用型の薬剤なども併用する。
- 2) 防虫ネットやほ場周辺の除草、可能な作物での近紫外線カットフィルムの利用など耕種的防除を必ず併せて実施する。
- 3) 栽培終了時には、速やかに蒸し込み処理などを行い、本虫のハウス外への拡散を防止する。

表：2005年2月のシルバーリーフコナジラミの発生状況

発生面積:ha (寄生株率:%)

| | 促成ナス | | 促成ピーマン | | 促成トマト | |
|-----|-------------|----------|------------|------------|-----------|-----------|
| | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 | 本年 | 平年 |
| 東 部 | 153.1(12.9) | 9.6(0.2) | 21.0(33.4) | 0.8(1.4) | - | - |
| 中央部 | 23.6(4.9) | 3.6(0.8) | 41.4(4.0) | 12.8(3.7) | 4.1(0.2) | 6.9(4.4) |
| 中西部 | - | - | 6.8(3.5) | 0.7(0.0) | - | - |
| 西 部 | 8.0(2.2) | - | - | - | - | - |

ナス栽培面積：東部 287ha、中央部 59ha、西部 20ha

ピーマン栽培面積：東部 35ha、中央部 91ha、中西部 27ha

トマト栽培面積：中央部 37ha

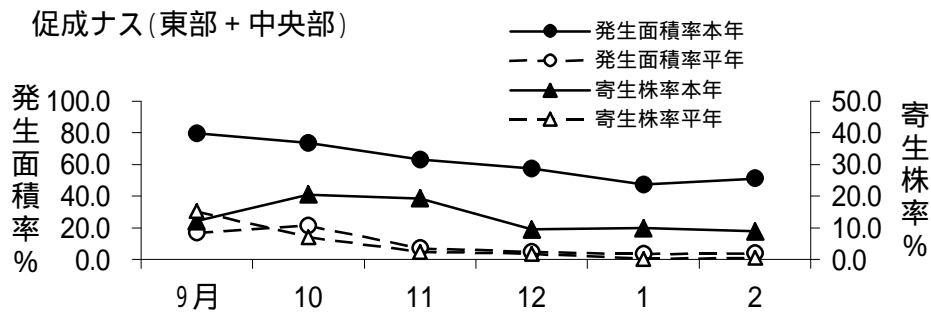


図1 ナスのシルバーリーフコナジラミの月別発生推移

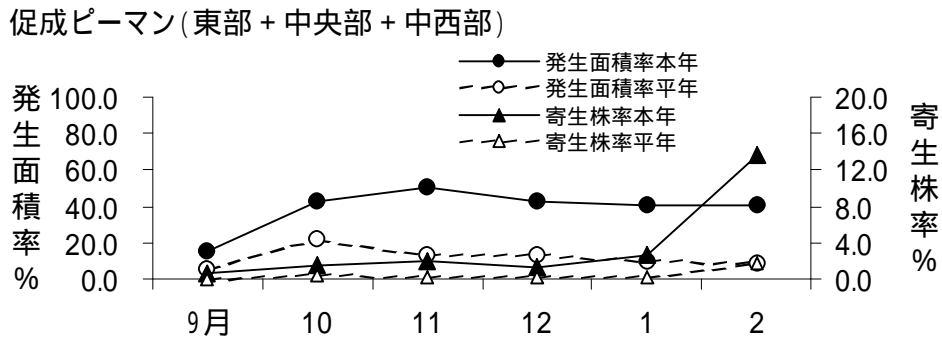


図2 促成ピーマンのシルバーリーフコナジラミの月別発生推移